脂質データベースLipidBank
（日本脂質生化学会）

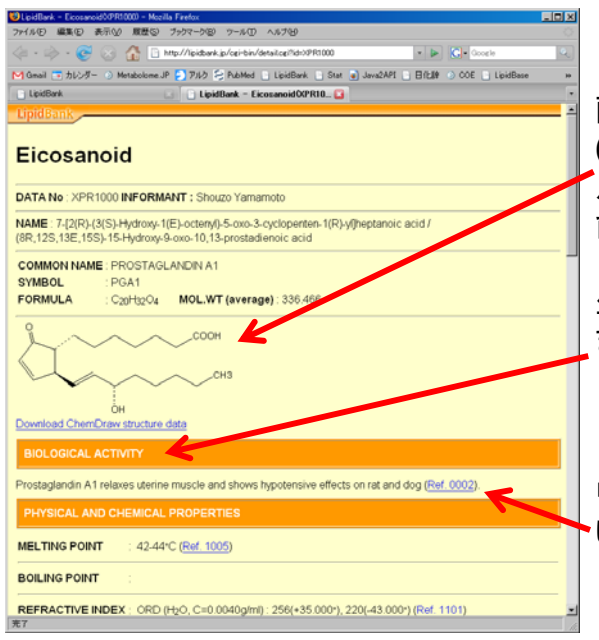
〇八杉悦子 [1,2]、有田正規 [3]、西島正弘 [4]

[1] 東大・大学院・医学系研究科・メタボローム、 [2] JST, CREST
[3] 東大・大学院・新領域創成科学研究科
[4] 国立医薬品食品衛生研究所

ポストゲノムの時代に、生体内で代謝される化合物の網羅的解析メタボロームが脚光を浴びている。そのなかでタンパク質や糖と共に脂質は重要な位置を占めている。日本の脂質研究は先端的な研究者が多く輩出した長い歴史があり、これを背景に日本脂質生化学研究会の有志はLIPIDBANK for Web（生理活性脂質データベース）を1999年にWeb上に公開した(http://lipidbank.jp 英語版のみ)。世界で初めて脂質を網羅したデータベースを日本から発信する事ができた。LIPIDANK for Webは2006年に日本脂質生化学会公認のデータベースとなり、2007年には名称をLipidBank（URLは同じ）に改めた。2008年にはライフサイエンス統合データベースの「生命科学データベース横断検索」から検索が可能になったので、英語のみならず日本語から検索が可能になった。これは日本のユーザーに便利なツールであり、幅広い分野から利用されることを期待している。

❑LipidBankとは

LipidBank (http://lipidbank.jp/) は日本脂質生化学会 (JCBL)の公式データベースであり、脂肪酸、グリセロ脂質、スフィンゴ脂質、ステロイド、各種ビタミンの構造、物理化学的特徴、文献情報を公開しています。



画像元データ(ChemDrawファイル）がダウンロード可能です

生理活性が記されてます

リファレンスがついています

2009年5月現在でおよそ7,000物質が登録されており、化合物名、質量等で検索可能です。
さらに全体が16のクラスに分類されており、クラス毎に特化した検索オプションも用意されています。

しかし10年以上前に作成されたものであるため、
1 メンテナンス予算の確保が難しい
2 新しいデータの入力、修正が容易でない
など、様々な問題点があります。

ご意見をお待ちいたしております
e-yasugi@umin.net

❑LipidBank（新version）に Wikiを導入する

Wikipediaのために開発されたMediaWikiはマルチユーザ環境のアノテーション作業をサポートしている、履歴を全て保存できる等のメリットが評価されています。

しかし、データベースとして使うには、百科事典のためのシステムなので、各ページが独立に編集可能で、用語の統一やデータの統計、インデクスを作る仕組みが存在しません。

この欠点を回避するのに、我々は「ページ内検索コマンド」という機能をMediaWikiに追加し、物質の階層分類IDさえ与えれば、その階層を自動的に表示したり、各階層での統計情報を自動生成できるように設計しました。

DBCLS Database Center for Life Science 統合データベースプロジェクト ⇔ LipidBank 日本脂質生化学会

❑生命科学データベース横断検索からLipidBankへ

統合データベースプロジェクトの横断検索から、LipidBankへリンクが貼られています。統合ホームページ(http://lifesciencedb.jp) から、LipidBankに集積されている脂質化合物を日本語あるいは英語で検索ができるようになりました。

JCBL 脂質データベース構築委員会

President: Masahiro Nishijima

Makoto Arita	Masanori Arita	Kentaro Hanada
Takeshi Kasama	Yoshihiro Kita	Tetsuyuki Kobayashi
Kazuo Nakamura	Mieko Oshima	Yousuke Seyama
Takao Shimizu	Akemi Suzuki	Ryo Taguchi
Yasunobu Uchijima	Etsuko Yasugi	Kazuaki Yokoyama